

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1 3	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Hypothalamic-pituitary-adrenal system adaptation to detoxification in alcohol-dependent patients is affected by family history of alcoholism. アルコール依存性患者における視床下部-下垂体-副腎軸の解毒への適応はアルコール中毒の家族歴の影響を受ける	
執筆者 Zimmermann U, Hundt W, Spring K, Grabner A, Holsboer F.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Biol Psychiatry 2003, 53(1):75-84	
キーワード 視床下部-下垂体-副腎(HPA)軸、アルコール依存症、遺伝的要因、CRH、ACTH、 コルチゾール	
要 旨 <p>アルコールの禁断症状は視床下部-下垂体-副腎(HPA)軸に影響をあたえる。本研究ではアルコール依存症の家族歴がアルコール依存性患者における解毒期間中、薬理的処置で HPA 軸の応答を変調させるかについての検討を行った。アルコール依存症履歴のない 16 の家族、とアルコール依存症履歴がある 19 の家族を対象にし、アルコール投与の中止を行った。35 全ての患者でアルコールの禁断症状が緩和した 1 週間後に調べた。17 の患者は禁断症状時のもテストした。Dexamethasone 1.5mg を 11 p m に口腔から投与しその後、その後 CRH ホルモンを次の日の 3 時に静脈投与した。血漿中の ACTH やコルチゾール濃度は CRH 投与後、0、30、45、60、75 分で測定した。</p> <p>その結果、禁断症状時にはコルチゾールの濃度はコントロールに比べ患者で有意に増加したが ACTH の濃度に変化は観察されなかった。禁断症状の後、コルチゾールレベルは家族にアルコール依存症履歴がある人で通常レベルに戻ったが、その履歴がない人では高レベルを保っていた。ACTH は依存症履歴がある人でわずかに減少した。両ホルモンは家族履歴がある患者で履歴のない患者に比べ増加していた。</p> <p>以上の結果から、アルコール禁断症状誘導性の HPA 系調節障害からの回復は家族履歴のない患者より履歴のある患者でより早く起こることが明らかとなった。この結果はエタノールに関連する刺激への中枢神経適応の効力が遺伝的要因に関連している可能性があることを示している。</p>	